



正しい種もみ消毒・催芽 で良い苗をつくらう！

今年も苗の種子準備の時期がやってきました。毎年の慣れている作業だからこそ、手順をもう一度確認し、良い苗をつくりましょう!!

塩水選

※塩水選の濃度（水10ℓ当り）

種別	うるち	もち
比重	1.10	1.06
並塩	1.55kg	0.90kg
硫安	1.98kg	1.10kg

注）購入した種もみも実施しましょう。

水洗い

※塩水選で沈んだもみは必ず流水でよく洗ってください。水洗い後は、手にべとつかない程度に水を切ります。

袋詰め

※目のあらい袋に7分目程入れる（薬剤効果を高めるため）

種もみ消毒

※『テクリードCフロアブル（200倍）』に『スミチオン乳剤（1000倍）』を加えて種子消毒を行います。

種籾の量	4kg	10kg	20kg	40kg
水の量	8ℓ	20ℓ	40ℓ	80ℓ
テクリードC	40ml	100ml	200ml	400ml
スミチオン乳剤	8ml	20ml	40ml	80ml

浸種

- ① 停滞水で3日間（72時間）浸種
- ② 水交換（酸素不足にならないように水の交換を行います。）
- ③ 浸種
※ 浸種期間の目安は、積算温度で100～120℃が目安です。

★★ 温湯消毒の場合 ★★

消毒の薬剤は使用せずに、種子袋を60℃の温湯に10分間浸漬します。浸漬直後に、温湯の水面付近で種子袋を5回程上下させ種子内部の温度を均一化し、終了後ただちに種子を水で冷却します。

催芽

※催芽の温度は28～30℃を守り、細菌病やばか苗病予防のため、高温にならないよう十分に気を付けましょう。

播種

※播種量は催芽籾で1箱あたりコシヒカリ150g、その他の品種で180gとします。
注）厚播きだと弱い苗になったり、病気が出やすくなりますので注意しましょう。



静浜堂農経済センター
梶原 剛